

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人守山市文化体育振興事業団	
施 設 名	守山市市民文化会館	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額(総額)	3,913	(千円)
公 演 事 業		(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業	3,913	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ルシオール AKF秋色	2018年11月25日	【大ホール】大阪交響楽団による0歳児から鑑賞できるコンサート。指揮：石崎真弥奈、演奏：大阪交響楽団 他	目標値	4,000
		大ホール・小ホール他		実績値	3,470
2	ルシオール音楽塾 第13回～15回	2018年9月2日、10月21日、12月16日	講師のお話と演奏のセット講座。講師：中村孝義、青山登志和、岡田暁生、演奏：日本センチュリー交響楽団メンバー他	目標値	450
		小ホール		実績値	374
3	中山道・守山宿 旅への誘いコンサート vol.03～vol.06	2018年4月7日、6月2日 2019年1月12日、2月16日	地域資産等の紹介と演奏。出演：イリーナ・メジューエワ、法貴彩子、西川茉莉奈、文京華、黒澤明子、清水徹太郎、植松さやか	目標値	800
		小ホール		実績値	453
4	ルシオール街かどコンサート vol.18、vol.19	2018年9月8日 2019年2月24日	公民館等で開催する鑑賞無料のコンサート。出演：水野奈美、東桂子、小林久美子、島影聖人、筈井美貴	目標値	280
		市内公民館		実績値	371
5	音楽の扉 Room No.003、004	2018年7月16日 2019年3月3日	守山市出身のジャズピアニスト加藤景子がゲストを迎えて送るジャズ公演。出演：加藤景子、SUITE VOICE、コモブチキイチロウ、ジーン重村他	目標値	360
		小ホール		実績値	292
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	5,890
				実績値	4,960

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

交付要望書では、守山市民ホールができること（＝ミッション）として、①人間の身体的能力、知性と感性の可能性へ挑戦する優れた実演芸術を提供する、②市民が文化芸術の担い手となる、③守山に文化芸術の創造力をプロデュースし、アーティストを育てる、④守山の歴史や地域資源を活かす、⑤長期的・継続的な取組を行う、の5点をあげ、これに沿って、守山市の文化芸術の基盤を作るための普及啓発事業として5つの事業を組み立て、当初予定のとおり事業を進めることができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

守山市は全国、滋賀県に比べて若い世代の割合が多く、教育・子育て環境の充実が市の重要な課題となっている。「第5次守山市総合計画（2016改訂版）」では、文化・芸術は、市民が真にゆとりと潤いの実感できる心豊かな生活を実現していくうえで不可欠なものであり、文化・芸術の振興と、市の経済活動やまちづくり活動は密接に関連し合うと位置づけられている。「守山市教育行政大綱」では、1年を通して、子どもから大人まで誰もが気軽に本格的な文化・芸術に親しめる機会を設ける」と規定されている。また、「守山市文化振興アクションプラン（平成26年～30年度）」では、アクションプラン1子どもの文化芸術体験として、「次代を担う子どもに対する文化芸術体験活動を充実させます」、アクションプラン2文化芸術の拠点の充実として、「文化芸術活動の拠点として市民ホールを位置づけるとともに、まちなかでの文化芸術活動の場を充実させます」と規定され、これに基づき市民ホールにおいて、子どものための事業や実演芸術の普及啓発事業が始まることとなった。

子どものための事業としては、「ルシオールAKF秋色」、身近な場所で気軽にクラシック音楽を聴ける「ルシオール街かどコンサート」、知的なアプローチをしたい人たちに応える「ルシオール音楽塾」、ふるさとの文化資産等の再発見と関連づける「旅への誘いコンサート」、地元出身アーティストがジャズへ導く「音楽の扉」の5つの事業で助成事業を構成し、この他に市主催で当事業団が共催する「ルシオールアート キッズ フェスティバル」では、市内文化団体や経済団体等と協働することで、市の文化的、社会的、経済的課題に応えようとしている。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

入場者・参加者数に関しては、平成30年度の目標値 5,890人に対して実績値 4,960人、目標達成率 84%だった。

ルシオールAKF秋色については、子どもたちやファミリー層に実演芸術への関心を喚起するため、秋の1日のフェスティバルとして演出し、目標値には達しないものの3,000人を超す参加を得ることができた。

ルシオール音楽塾については、実演芸術に対し知的アプローチを求める人たちのニーズに応えるとともに、優れた実演を提供しようとするもので、参加者数は目標に達しなかったが、5年度目となり参加者の満足度も高い事業（アンケートでは、大変良い・良いが83%）として定着してきている。参加者数に関しては更に高める必要がある。

旅への誘いコンサートについては、ワンコインとすることでアクセスしやすくすると同時に若手中堅の優れた奏者の起用を狙っている。年4回公演と前年度から公演数は倍増したので、全体の入場者は増えているが、更に集客に努める必要がある。関西を中心に活躍する若手中堅の奏者を起用し、アンケートの大変良い・良いが81%と入場者の評価も高く、また、守山市外の入場者が多く（アンケートで56%）、広い地域から関心を集めている。市内の文化遺産などと関連づけているので、更にきめ細かい広報活動が必要となる。

ルシオール街かどコンサートについては、6年度目となる事業で、地域に親しまれており、目標を上回る入場者を集めている。今後は他の事業へ導くための努力が必要となる。

音楽の扉の参加者数は目標には達しなかったが、ジャズピアニスト加藤景子は地元出身として根強い人気があり、近隣地域も含め一層の広報活動が必要である。



第13回 ルシオール音楽塾



第13回 ルシオール音楽塾



第13回 ルシオール音楽塾 質疑応答



旅への誘いvol.05 十王寺の紹介



旅への誘いvol.05



音楽の扉 Room No.03

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演期日およびその準備についても当初計画通り実施できた。期日が確定していなかった「ルシオール街かどコンサート」についても想定の範囲で実施できた。

事業費については、当初予定の11,514千円に対し、決算は10,134千円で執行率は88%であった。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

実演芸術において創造性を発揮するためには、優れた作品を優れた演奏で提供することが基礎となる。実演家の起用に当たっては、日帰り圏からが望ましいという現実的な事情も含め、特に関西圏での創造力の蓄積に寄与できることを考慮している。関西圏で活躍する若手・中堅の奏者を基本に、プロデューサーが事前に実演で確認することを原則に優秀な人材の起用に努めている。

オーケストラについては、日本センチュリー交響楽団と協力協定を結び、公民館等で実施する「ルシオール街かどコンサート」「ルシオール音楽塾」「旅への誘いコンサート」でアンサンブル公演を行い、オーケストラの団員個人が能力を発揮する場を設け、聴衆にもオーケストラの団員個人に注目できる機会をつくっている。オーケストラ全体の公演機会については、守山市が主催し、当事業団が共催する音楽イベント「ルシオール アート キッズ フェスティバル」において出演している。

また、滋賀県ではびわ湖ホールがオペラ制作を中心に実演芸術の創造活動の中心となっており、びわ湖ホール声楽アンサンブルは関西での声楽家育成の中心的団体となっていることから、OB・OGであるソロ登録メンバーの中から、上記助成事業に数人ずつ優れた人材を起用している。びわ湖ホール声楽アンサンブル全体としては、「ルシオール アート キッズ フェスティバル」での公演機会を設けている。また、守山市が主催する小学生を対象とする鑑賞事業でも、平成30年度には市民ホールでオペラ「森は生きている」を上演している。

また、地方都市においては、日常的にクラシック音楽の実演に接する機会が少ないことから、自分たちには縁がないものと頭から敬遠する傾向が強く見られる。このため、コンサートでの奏者のトーク、講師の解説、判りやすい基礎的な曲目解説の掲載のほか、「旅への誘いコンサート」では、最初の10分間で、演奏される曲目と何らかの関連のある地域の歴史資産や自然を取り上げ、市民の日常と関連づけるようにしている。これはアンケートでも好意的な反応が多く見られ、地域のミニコミ誌でも企画が紹介された。

演奏曲目については、耳なじみのある親しみやすい曲と傑作と言えるような本格的な作品の両方を取り上げるようにしている。リストの「巡礼の年（全3年）」の3ヶ年での全曲演奏（30年度は第2年「イタリア」）、ドビュッシーの「映像第2集」、ブラームス「弦楽六重奏曲第1番」、ヴェルディ「リゴレット」ハイライトなど音楽史上重要な作品を積極的に取り上げ、本格的なクラシック・ファンの注目も集められるようにしているが、学識経験のある講師による解説、その他の場合は曲目解説を配し、初心者にも判りやすいよう努めた。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

成人層へのクラシック音楽の普及啓発を狙っている「ルシオール街かどコンサート」、「ルシオール音楽塾」、「旅への誘いコンサート」では来場者からのアンケートを実施し、50%の高い回収率となっている。

全体を見ると性別では、男性41%、女性55%、年代別では30歳代以下が6%、40代・50代が19%、60歳以上が72%と、クラシック・ファンの一般的な世代構成を反映して、高齢世代が多く、若年層への浸透は大きな課題ではあるものの、当面は量的拡大を図ることが重要と考えられる。市内・市外の別では、市内が51%とかなり多くなっているが、市の立地が大都市の京都市、県庁所在地の大津市から幾分か距離があり、市内と隣接市からの集客が中心となっている。交通手段で車が66%と非常に多くなっているのは、ホールの立地がJR守山駅から幾分距離があり、バスの運行本数も少ないことにも依っている。

これらの結果から、地理的条件を考慮すると、守山市内にきめ細かに情報を出すことが重要であること、隣接市へは公共ホールなどの公共施設を通しての情報提供、更により広域にはクラシック・ファン向けの広報を加えることが効果的と考えられる。

こうしたことから、会場が公民館等の「ルシオール街かどコンサート」、地域の歴史資産等を題材にする「旅への誘いコンサート」では関係する地区の公民館情報誌に掲載し、一定の反応が見られる。隣接市およびより広域の地域にはコンサートでのチラシ配布を中心にしながら、情報誌・紙への掲載などを行った。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

「守山市文化振興アクションプラン（平成26年度策定）」において、守山市民ホールは市の文化振興の中核施設として位置づけられ、それにふさわしい事業に取り組むとともに、その過程で組織体制としてはプロデューサー（非常勤）とディレクター（常勤）を置くこととされた。平成26年度からはプロデューサー（非常勤）が、平成28年度からはディレクターに相当するプロパー職員が置かれている。当該プロパー職員については、2か月間びわ湖ホールに研修派遣され、専門職員としての資質を磨くとともに、助成事業を始めとするアートマネジメントを担当している。「ルシオール街かどコンサート」「ルシオール音楽塾」などの助成事業も、上記アクションプランに基づき始まった事業である。

また、助成事業の執行を通じて、びわ湖ホールや日本センチュリー交響楽団とのネットワークの形成、情報やノウハウの交換ができています。また、守山市が主催で当事業団が共催する音楽イベント「ルシオール アート キッズ フェスティバル」を市や文化団体、経済団体と協力して毎年開催しており、音楽公演の企画や運営については当財団が担当し実施している。助成事業と併せて、守山市の文化振興を牽引する事業となっている。

これら助成事業を中心とした主催・共催事業については、その結果を組織内部で評価し、見直し、改善、広報への反映など、次年度に向けてPDCAサイクルを回すこととし、そのために自主事業検討会議（年2回開催）、事業団の経営会議（毎月開催）でも取り上げている。

守山市との指定管理契約については、前期（平成26年度～30年度・非公募）に引き続き、これまでの運営管理に対する市の積極的な評価のもとに、平成31年度～令和5年度も非公募で継続して受託することとなった。

なお、守山市民文化会館の指定管理者としての（公財）守山市文化体育振興事業団は、中期経営計画（平成29年度～平成33年度）を定め、計画的に事業を推進している。